

熊本県

令和7年度UXプロジェクト実証実験サポート事業 Kumamoto Innovators Pitch

“怪我ゼロ社会”へ、非侵襲粘弾性測定センサーを用いた
プロスポーツ選手の筋損傷予防と回復の社会実証実験”

タグル株式会社

火の国、熊本の
走る熱源を持ったプロスポーツチームを起点に、
医療・健康・地域が横断的につながる実証フィールド
が存在している。



スポーツにはヒトの人生を変える力がある
だからこそ、地域・健康・未来に影響する



熊本県では若年層
(10代後半～20代前半) の域外流出が続き
人口減少と地域経済縮小の悪循環が進行



若年層流出



乗り越えることが
不可能と思われるくらい大きな壁に
挑戦し続けるアスリートが起こす奇跡

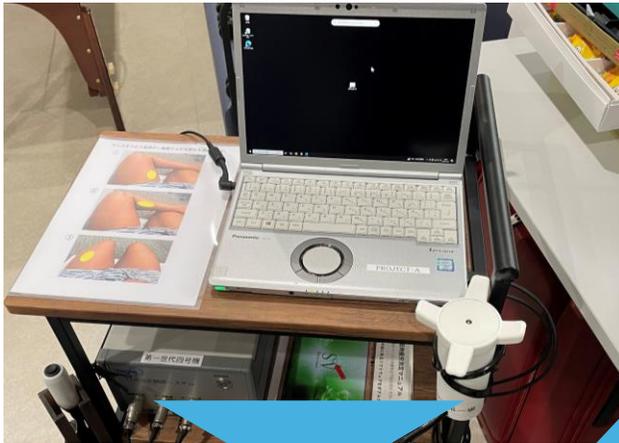
熊本でその奇跡を起こし
スポーツの持つ力で
若年層が熊本で活躍する世界を創る



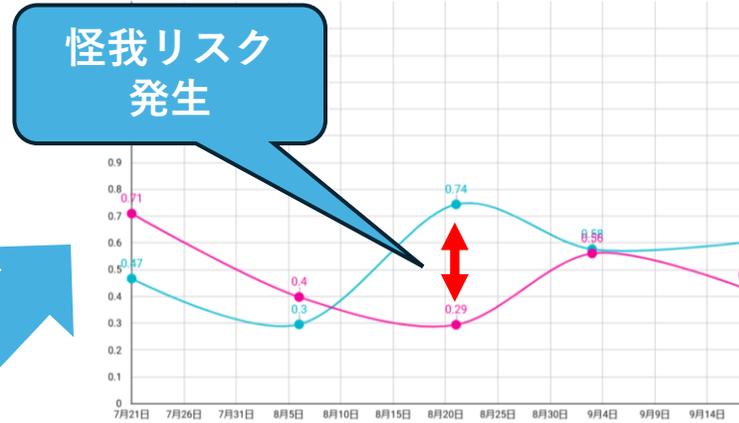
**アスリートが最高のパフォーマンスを
発揮するための怪我予防**

本実証は下記の運用フローのもとでデータ活用が現場判断・介入に与える影響を検証

弊社プロダクト(デジタル触診)



怪我リスクが一目でわかる



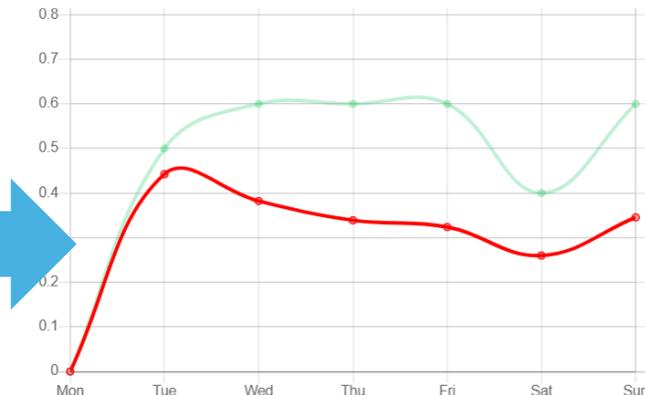
適切なケア・介入



セルフで手軽に短時間で測定



体のコンディション可視化



最適なトレーニング



【目的】

データを用いることで
現場の判断・介入がどのように変化するか

【仮説】

データによって、トレーナーの
判断の確度や介入のタイミングに変化が生じる

期間：2025年11月11日～2026年1月29日※現在も進行中

アンケート対象：プロスポーツチームトレーナー4名

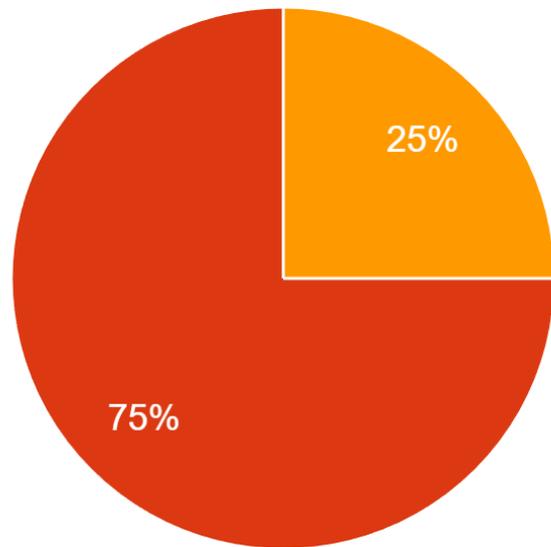
測定対象：プロスポーツ選手12名

測定回数：1,533回

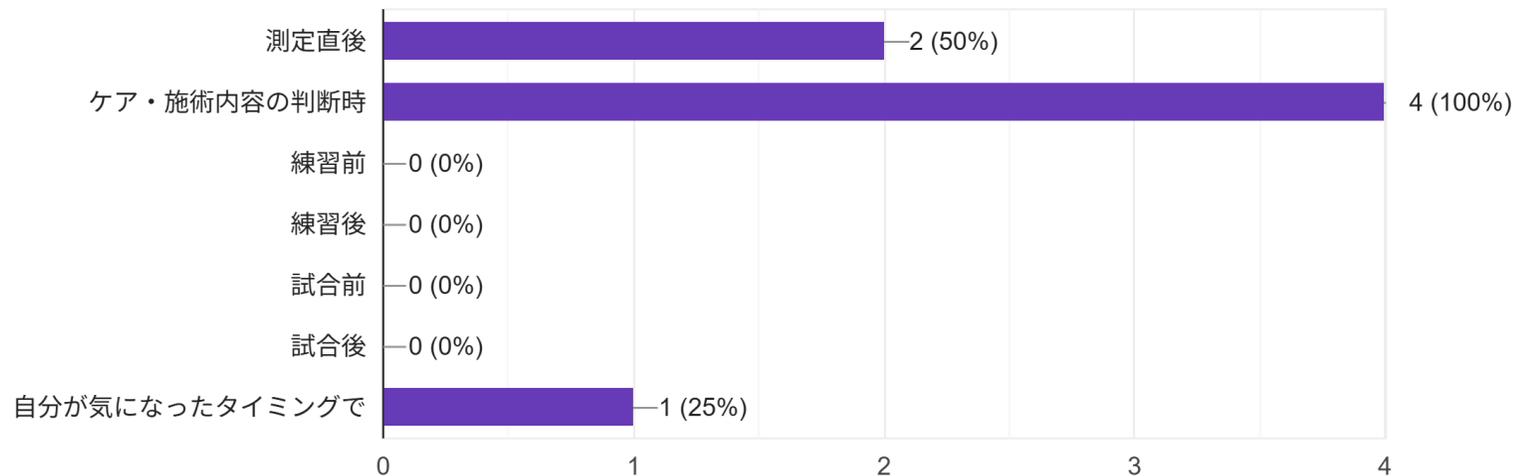
データは判断を置き換えない 意思決定を後押しする存在



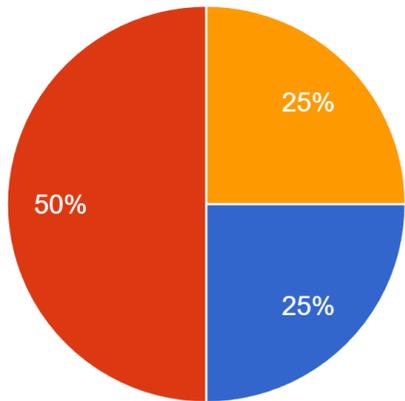
測定データは特別な場面ではなく、 日常のケア判断の中に**自然に**組み込まれていた



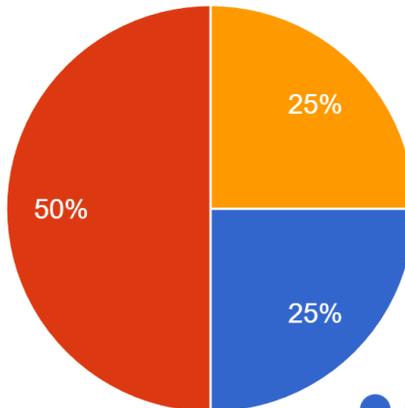
- 毎回
- ほぼ毎回
- 必要な時のみ
- あまり確認していない



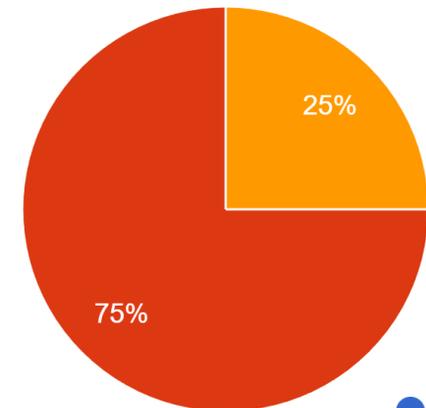
データは判断を自動化せず、 迷いが生じる場面での判断の確度と タイミングを後押しした



- 明確にあった
- 多少あった
- あまりなかった
- なかった

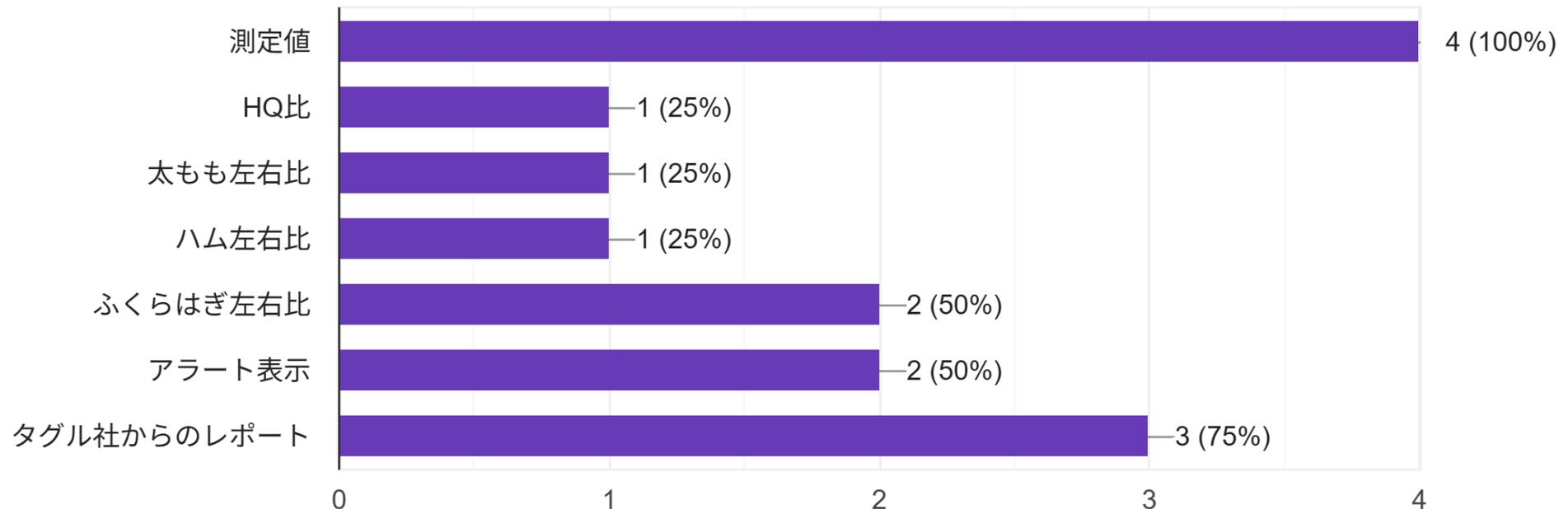


- 判断が難しかったと思う
- 判断に迷う場面が増えたと思う
- 同じ判断ができたと思う
- 判断が簡単になったと思う

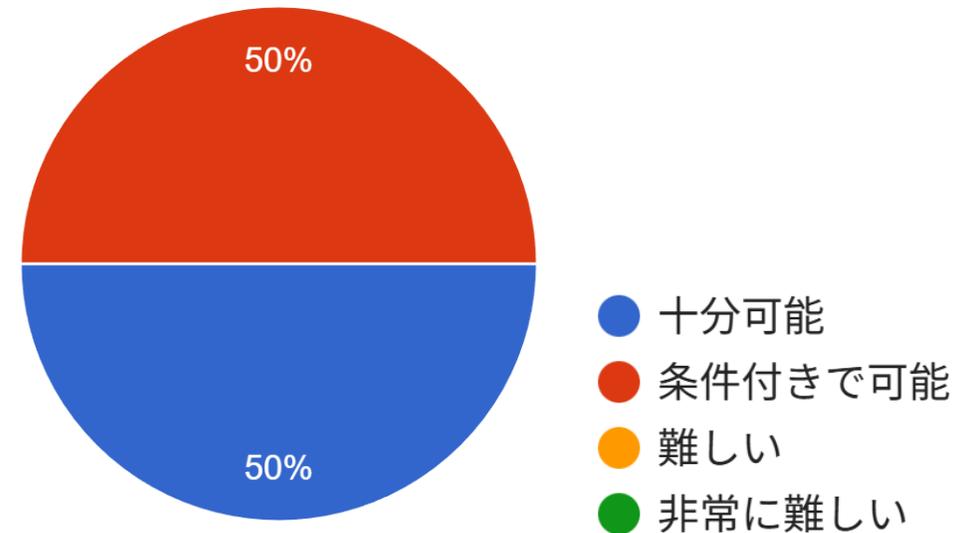
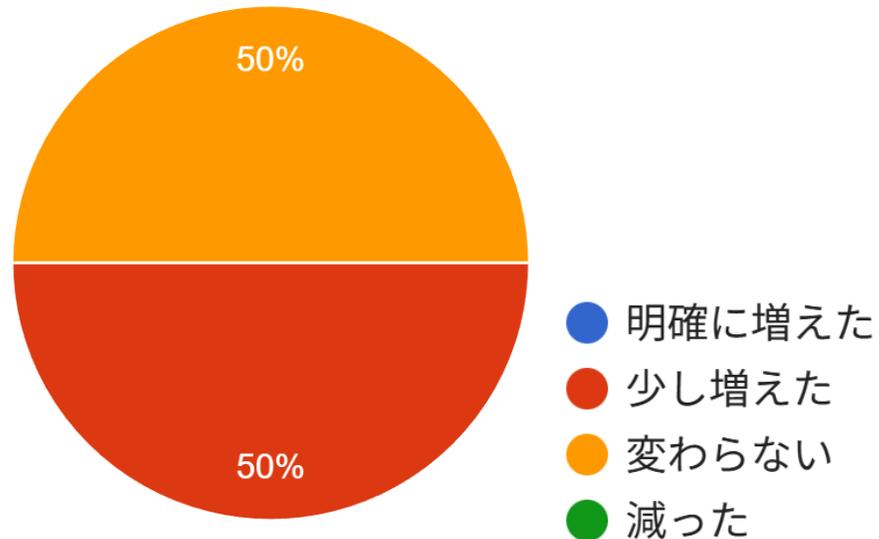


- 明確に上がった
- 少し上がった
- 変わらない
- 下がった

判断材料として最も信頼されたのは、 測定値そのものだった



現場の業務負荷を大きく増やすことなく、 継続利用が可能な範囲に収まっていた



**短期実証では断定できない
だからこそ、熊本で継続検証する価値がある**

選手が不調と言っていた場所と数値が高い部分がほとんど一致しているように感じている。

選手の主観

トレーナーの主観
(視診・触診・経験等)

デジタル触診
(定量化による客観)

■ プロスポーツを核に広がる実証

▷ 競技横断の実証フィールドが生まれる

■ 医療・研究との接続

▷ 若手研究者・医療人材が関わり続けられる

■ 熊本発モデルの構築

実証→改善→横展開の循環をつくる

▷ **熊本に「関わり続ける理由」が生まれる**

スポーツは、人生を変える

